

溝上慎一の教育論 <http://smizok.net/education/>
(AL 関連の実践)【中学/国語】単元構成の中に位置する「AL 型授業」(2018 年 4 月 18 日掲載 更新なし)

また、本単元では下記、2 つの帯単元を導入している。

① 書写、特に硬筆分野における資質・能力を育成する活動。

→国語科には学習内容の定着に継続を要する分野（漢字や文法等）があると考えている。
今回は硬筆分野に焦点を当てて、1 単位時間で指導するよりも、日々の継続的な指導で効果的に資質・能力の育成を図ることをねらいとしている。



図 2 書写の様子

② 情報活用、特に情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能の資質・能力を育成するための活動。

→本校には chromebook というノート型 PC を生徒が 1 人 1 台ずつ所有しているという学習環境がある。今回はその chromebook を活用し、1 単位時間の振り返りを入力させることで情報活用の資質・能力を育成することをねらいとしている。また、この振り返りはアクティブ・ラーニング型授業において、個 - 協働 - 個の学習サイクルを生み出すことにも必要なことであると考え、帯単元として導入している。

本単元で育成を図ろうとしている資質・能力をまとめたものが図 3 である。

資質・能力シート

北海道教育大学附属函館中学校

教科名	国語	学年	1	時期	10~12
単元・題材名	六 説明を比べる				
この単元・題材の役割					
	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力		
知識・技能	【(2)情報の扱い方に関する事項】 ア 原因と結果、要素と部分など情報と情報との関係について理解すること イ はじめや分岐、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと 【(3)言語文化に関する事項】 エ 書体に関する事項 (ア) 字形を覚え、文字の大きさ、配列などについて理解して、様式で書くこと	・情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能			
思考力・判断力・表現力等	【A 話すこと・聞くこと】 ア 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること イ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること 【B 書くこと】 イ 書く内容の中心が明確になるように、原稿の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること ア 原稿を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること 【C 読むこと】 ア 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて筋道を基に捉え、要旨を把握すること イ 文章の構成や展開、表現の効果について、原稿を明確にして考えること	・相手や状況に応じて情報を適切に発信したり、受信者の意図を理解したりする力			
学びに向かう力・人間性等			・言葉を通じて、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団としての考えを発展・深化させようとする態度		

図3 本単元で育成を図ろうとしている資質・能力(資質・能力シート)(大きく)

第 3 節 単元構成

本単元を 13 時間で構成した。本単元の指導計画は図 4 のとおりである。

単元デザインシート

教科等名		国語科	学年	1	時期	10~12
単元名		六 説明を比べる				
この単元で達成を目指す学習・能力						
学習目標	3つの柱	具体的な学習・能力			評価する時期	
(a)	知識・技能	原文と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること	4	7		
(a)	知識・技能	比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと	3	5	8	
(a)	知識・技能	字形を覚え、文字の大きさ、配列などについて理解して、指導で書くこと	単元元			
(a)	思考力・表現力・判断力等	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること	12			
(a)	思考力・表現力・判断力等	辞書に即して参照したり質問したりしながら語の内容を覚え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること	9	10		
(a)	思考力・表現力・判断力等	書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること	11			
(a)	思考力・表現力・判断力等	根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること	11			
(a)	思考力・表現力・判断力等	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて語法を基に読み、要旨を把握すること	2	4	6	7
(a)	思考力・表現力・判断力等	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること	9			
(a)	学びに向かう力・人間性等	読解を通して、自分のものの見方や考え方を広げようとするとともに、考えを伝えようとして、敬意としての考えを尊重・深化させようとする態度	1	10	12	
(b)	知識・技能	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	単元元			
(b)	思考力・表現力・判断力等	相手の状況に応じて情報を適切に発信したり、発信者の意図を理解したりする力	1	11	13	
単元の構成						
時数	学習内容 学習方法	探究の過程	評価方法			
1	漢字の音と形への理解を深める(漢字の音と形) 習熟読み・意味読み・熟読を繰り返す。1字ずつの漢字の意味読みと熟読を繰り返す。	情報の収集	観察(取り組みの様子) ワークシート(熟読の読みを正しく読んでいるか)			
2	読みの構造を理解し文章内容を理解する(電子レンジの発想) 読みの構造(オープン・クローズ)や、自分で問いをつくることでも文章内容の理解につながることを目指す。	情報の収集	観察(取り組みの様子)			
3	Q&A を作り文章内容を理解を深める(電子レンジの発想) 4つの中心文についてQ&Aを作り、各自のQ&Aを比較・組み合わせ・修正しながら読む。	整理・分析 まとめ・表現	プリント(数・難易度・分類・組み合わせ・修正) Q&A集(難易度のバランス・主張との関係)			
4	筆者の主張に賛成する中心文を見つけ、文章内容を理解する(読者の受けを覚える) 筆者の主張を整理し、その主張に賛成するための中心文を探しながら本文を読み、検討し合い、発表する。	情報の収集	ワークシート(中心文を見つけられているか)			
5 (本時)	Q&A を作り文章内容を理解を深める(読者の受けを覚える) 5つの中心文についてQ&Aを作り、各自のQ&Aを比較・組み合わせ・修正しながら読む。	整理・分析 まとめ・表現	プリント(数・難易度・分類・組み合わせ・修正) Q&A集(難易度のバランス・主張との関係)			
6	筆者の主張を読み取る(花の形に軸められたらしき) 主張の響かれている部分を抜き、筆者の主張をまとめ、PAで強調しながら読む。	情報の収集	ワークシート(主張をまとめられているか)			
7	筆者の主張に賛成する中心文を見つけ、文章内容を理解する(花の形に軸められたらしき) 筆者の主張を整理し、その主張に賛成するための中心文を探しながら本文を読み、検討し合い、発表する。	情報の収集	ワークシート(中心文を見つけられているか)			
8	Q&A を作り文章内容を理解を深める(花の形に軸められたらしき) 5つの中心文についてQ&Aを作り、各自のQ&Aを比較・組み合わせ・修正しながら読む。	整理・分析 まとめ・表現	プリント(数・難易度・分類・組み合わせ・修正) Q&A集(難易度のバランス・主張との関係)			
9	3つの文章を読み比べる(電子レンジの発想・読者の受けを覚える・花の形に軸められたらしき) 構成・表現・主張・その他という観点から、キーワードを分類し、検討しながら読む。	情報の収集	観察(取り組みの様子) 話し合い(原稿・読解)			
10	筆者の主張のわかりやすさから3つの文章を読み比べる(電子レンジの発想・読者の受けを覚える・花の形に軸められたらしき) 3つの文章から読者にとって筆者の主張がわかりやすいものを選び、その理由を、文章の特徴をポイントに話し合う。	情報の収集	観察(取り組みの様子)			
11	筆者の主張のわかりやすさから3つの文章を読み比べる(電子レンジの発想・読者の受けを覚える・花の形に軸められたらしき) 3つの文章から読者にとって筆者の主張がわかりやすいものを選び、その理由を意見文の文章を書く。	整理・分析 まとめ・表現	ドキュメントシート(条件に合った意見文が書かれているか)			
12	自分の考えとの共通点や相違点を整理する(原稿のスピーチを書く) 共通のテーマをもとに共通のスピーチを書く。自分の考えとの共通点や相違点を話し合う。	まとめ・表現	観察(取り組みの様子)			
13	主張・根拠・根拠関係など、文の成分の役割について理解する(文の成分) 文の成分の役割についての役割を整理し、表点を自分なりに考えてまとめる。	情報の収集	ワークシート(表点がまとめられているか)			

図 4 本単元の指導計画(単元デザインシート)(大きく)

第 4 節 授業実践例

平成 29 年 12 月 8 日に授業公開を行った際の 1 単位時間の指導案は図 5 のとおり。

北海道教育大学別荘函館中学校					
教科等名	国語科		学年	1	
単元名	六 説明を比べる		本時	5 / 13	
この時間で育成を目指す資質・能力					
(a) (b) (c)	3つの柱	具体的な資質・能力			
(a)	知識・技能	字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと			
(a)	知識・技能	比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと			
(b)	知識・技能	情報と情報技術を選択的に活用するための知識と技能			
この時間の展開					
学習者			授業者		
字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で丁寧に書くことができる					
○書写のプリントを使用し、手本の字を模写する			・本時の課題となるページで取り組んでいるかを机間支援で確認する		
○本時の学習課題を知る			・学習課題を提示し、本時の学習活動について説明する		
主張にたどり着くための道筋をQ&Aで紹介しよう！					
○本時の活動の流れを確認する			・PPを使用し、本時の3つの活動の流れを説明し、1時間の流れを確認する		
○本時の活動グループ(6人1組)に分かれ、①の活動(個人でQ&Aを作成する)を開始する			・机間支援で個人での活動を支援する		
○本時の②～③の活動(問いの検討・スライドシートの記入)の流れを確認する			・②～③の活動(問いの検討・スライドシートの記入)の流れを説明する		
※②の活動(問いの検討)の話し合いのポイントを確認する			※問いの分類・比較・組み合わせ・修正がポイントとなる事を説明する		
【分類】 ・個人の問いを3段階の難易度で分類する 【比較】 ・問いを比較しながら1つの問いにしぼる 【組み合わせ】 ・2つ以上の問いを組み合わせ1つの問いをつくる 【修正】 ・1つの問いの文言を修正し、1つの問いをつくる			【話し合いのルーブリック】 A：問いを分類・比較し、必要に応じて組み合わせや修正を行い、その過程をプリントに書き表すことができる B：問いを分類・比較し、必要に応じて組み合わせや修正を話し合いの中で行っている C：問いを分類できているが、比較することができない D：問いを分類・比較することができない		
○授業感想を記入することで本時の振り返りをする			・本時の学習成果を確認させる		
○授業感想を記入することで本時の振り返りをする			・プロジェクターを使い、提出状況を提示する		
情報(振り返り)と情報技術(タイピング)を活用し、本時の学習を振り返ることができる					

図 5 1 単位時間の指導案(単位時間デザインシート)(大きく)

教材は三井はるみ「言葉のゆれを考える」、教科書は「伝え合う言葉中学国語1」(教育出版)である。

前時までに生徒は「言葉のゆれを考える」の筆者の主張を読み取り、その根拠となる部分を本文中の表現から見つけている状態である。本時直前の課題としては、その根拠となる部分についての問いを作成してくることを個人課題として設定した。

(AL 関連の実践)【中学/国語】単元構成の中に位置する「AL 型授業」(2018 年 4 月 18 日掲載 更新なし)

本時では、その課題であった問い(個)を、仲間と交流し推敲するという活動(協働)を通して、より筆者の主張への理解を深めるために、学習課題を「主張にたどり着くための道筋を Q&A で紹介しよう!」と設定し、新学習指導要領の知識・技能「比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方」の資質・能力の育成を図ることをねらいとしている。

また、授業の最後には帯単元として設定した 1 単位時間を振り返るという活動(個)を取り入れることで、アクティブ・ラーニング型授業の個 - 協働 - 個の学習サイクルも設定した。図 6 は授業の様子を撮ったものである。



図 6 授業の様子

第 5 節 成果

硬筆分野の資質・能力の育成と情報活用の資質・能力の育成において、帯単元を設定し、日々、短時間ではあるが、継続させたことには一定の成果があったと考えている。

硬筆分野の資質・能力の育成では、日々、継続させることで、文字を書くポイントを意識するようになり、他教科でノートを書いたりする際においても、その意識が波及し、丁寧な文字を書くことを意識する機会が多くなっている。また、国語科においては漢字や文法等、学習内容の定着に継続を要する分野があるため、今後も帯単元の活用を積極的に考えていきたい。

情報活用の資質・能力として焦点を当てた「情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能」については、非常に成果があったと考えている。

アクティブ・ラーニング型授業の場合、生徒自身に学びの振り返りを行う時間を設定しないと、活動のみの授業になってしまう場合が多々ある。今回は 10 分間で 200 字以上という条件のもとに、学習課題に対しての成果と課題を振り返らせたことで、生徒自身にも単元が進んでいくにつれて自身の成果と課題が明確になり、達成感が生まれるようになってきた。また、本単元では chromebook というノート型 PC を振り返りに活用したことで、その振り返りを短時間で教師が集

約し、目を通すことができるという効果もあった。更には、1 単位時間の振り返りがどンドンと教師側にも、生徒側にも蓄積されていくため、プリントを回収し返却するという行為における教師側の手元に記録が残りにくいというデメリットを解消できることもわかった。今後も chromebook というノート型 PC を効果的に活用できる場面を考えていきたい。図 7 は振り返りが蓄積されているスプレッドシートの例である。

生徒が送信した日付や時間などが自動的に入力され、200 字以上の字数にならないと送信できないなどの条件の設定を行うこともでき、振り返りの蓄積には重宝した。

1	A	2017/12/12 22:47:35	今日は、「花の形に秘められた不思議」の中心文を探しましたが、疑問と回答の中にまた疑問と回答が入っていると分かりました。
2	A	2017/12/08 10:33:30	今回の授業では、班で話し合い問と回答を作ることが出来ました。今回は修正などもありましたが、直すことや間をくっつけること
3	A	2017/12/05 23:10:20	今日の授業では中心文を探しましたが、思っていたよりも探すのが困難でした。何度も授業を受けたことのある文章だったので簡単
4	A	2017/12/04 12:28:55	今日の授業では電子レンジの発想を再認識することが出来ました。Q&Aを作って班で交流ということで意見がまとまらず、宿題にな
5	A	2017/11/30 13:48:02	今日の授業で重箱読みや湯桶読みは、日常生活で普通の熟語より使っている事が分かってとても良かったです。僕はどちらかと言う
6	A	2017/11/28 23:10:07	今回の書写を通して、カタカナや丸みがある字が苦手であることや字体には習字の時の癖があることなど改善しなければいけないと

図 7 振り返りが蓄積されているスプレッドシートの例

第 6 節 課題

2 つの帯単元を 1 単位時間の中で設定したことにより、国語科における資質・能力の育成を行う時間が、1 単位時間の中で少なくなってしまう。当然のことではあるが、単元や 1 単位時間を構築していく段階で、より生徒の活動をイメージし、適切な時間配分にする必要がある。また、教師自身の指示の言葉などにも課題があり、活動時間を確保できない場面もあった。その時に必要な指示の言葉をより具体的にイメージし、50 分間という 1 単位時間を効果的に活用していく必要を感じている。

今後も年間指導計画や単元の指導計画、更には 1 単位時間の指導計画を、生徒の活動の具体的なイメージをもとにマネジメントしていき、ねらいとしている資質・能力を、アクティブ・ラーニング型の授業で効果的に育成できるような実践を積み重ねていきたい。

溝上のコメント

- 興味深いのは、帯単元活動として授業冒頭に設けている書写(図 2)である。この意義について森谷教諭は、「硬筆分野の資質・能力の育成では、日々、継続させることで、文字を書くポイントを意識するようになり、他教科でノートを書いたりする際においても、その意識が波及し、丁寧な文字を書くことを意識する機会が多くなっている。」(第 5 節)と述べる。あらゆる科目の基礎となる国語力の育成を念頭に置いている。施策「言語活動の充実」(*参考)にも通じる視点である。

なお、帯単元活動は、本ウェブサイトで「常時活動」(授業(冒頭)の短い時間で繰り返し同じ活動をおこない、1~数ヶ月単位で生徒の態度や能力を育てていく活動のこと)(*参考)として紹介したものとほぼ同じである。東山中学・高等学校の中村憲幸教諭(*参考)の英語授業では「帯活動」と称して、英語の絵本について英語で説明するという活動を毎時間少しずつおこなっている。併せて読んでもらいたい。

(*参考) (用語集) 言語活動の充実

(*参考) (AL 関連の実践) 岩井智宏(桐蔭学園小学部)「常時活動を大切にスムーズな授業

(AL 関連の実践)【中学/国語】単元構成の中に位置する「AL 型授業」(2018 年 4 月 18 日掲載 更新なし)

の流れにのって学びに向かう力を育もうー授業の中での不自然な切れ目は教師の都合ー

(*参考) (AL 関連の実践) 中村憲幸 (東山中学・高等学校)「楽しく思考力を育てる英語の授業 (2)ー生徒の変化からみられる効果ー」

- ・ 帯単元活動は、授業最後で、**chromebook** を用いての振り返りとしても設けられている (図 6 の下の写真)。限られた時間のなかで 200 字以上のふり返しをおこなうことが求められており (200 字以上書かないと送信できないというように設定!)、深いふり返りを習慣化させている。データでふり返りが提出されるため、教師が短時間で集約して目を通せるようになっていくという効果も述べられている。帯単元活動と ICT を組み合わせた興味深い実践である。
- ・ アクティブラーニングを単なる活動への参加に終わらせないための、また深い学びへと繋げるための個ー協働ー個の学習サイクル (*参考) が採られている。
(*参考) (桐蔭学園の教育改革) 個ー協働ー個の学習サイクル (関谷吉史)
- ・ 充実したアクティブラーニング型授業がデザイン・実施されるようになると、第 6 節の課題で教諭が述べるように、タイムマネジメントや進捗の問題が当然出てくる。この問題に直面しない教師はいないので、時間を短縮できるところを食欲に探して、他方でしっかり時間をかけるところはかけるというようにメリハリをつけて、さらに充実したアクティブラーニング型の授業を目指してほしい。

プロフィール



- ・ **森谷 剛 (もりや つよし) @北海道教育大学附属函館中学校**
- ・ 一言：国語科の授業の可能性を追求しています。今の学校教育の中で、国語科としての使命は何なのか。生徒に何を習得させることが必要なのか。日々、研鑽を積みながら、授業を行っています。AL 型授業で、生徒たち自身が自分の力で学力を身に付けること。この自信が自己肯定感にもつながり、学校のより良い姿にもつながると感じています。今後も、生徒とともに、学び合い、切磋琢磨していきたいと考えています。